

平成21年5月14日 PQEST 会長挨拶

本日は、管路品質評価システム協会の第4回定時総会の開催にあたりまして、会員の皆様におかれましては、ご多忙の中、多数のご出席を賜り厚くお礼申し上げます。総会の開会にあたり、最近の諸情勢と協会活動との関連等について申し上げて、私からのご挨拶とさせていただきます。

皆様ご承知のとおり、昨年度から、世界的な不況が顕著となり、現在もその状況が続いております。今年の3月期の決算では、我が国の上場企業のワースト20社の赤字額の合計が6兆円を超えそうだとということで、新聞の見出しでは「土砂降り」状態などと表現しているようでございます。

一方で、新型インフルエンザによるパンデミックが現実味を帯びてきており、さまざまな観点から、我々を取り巻く環境は厳しい現実にさらされているのが現状であります。

さて、このような社会情勢の中、私共の業界が深く関係しております下水道をはじめとする管路施設におきまして、その老朽化は着実に進行しております。先に述べましたような社会不安が増大しようとも、せめて、最低限、安全・安心な暮らしを守るために、限られた財源内で如何に合理的で有効な維持管理を行っていくかということが、我々に与えられた非常に重要な課題となっております。

これを受けて、昨年度、国交省による「下水道長寿命化支援制度」が創設されました。これは、皆さまもご承知のとおり、予防保全を前提とした「下水道長寿命化計画」の策定に係る費用と計画に基づく計画的な改築・更新を支援するというものであります。この支援制度では、各事業体ごとに、事業体の事情や地域性を踏まえた独自性のある計画の策定が望まれており、点検や評価および判定の方法、改築・修繕の方法に工夫を盛り込むことが重要となっております。

これに対しまして本協会では、発足当初から、管路の品質を定量的・合理的に評価し、総合的に診断するシステムの必要性和、これを維持管理計画に盛り込んでいくことの重要性を訴えて参りました。具体的には、劣化診断・出来形診断・機能診断・経済診断のそれぞれについて要素技術を提案し、それらの有効性に対する認知度を高め、また、これらの要素技術を併用した総合的診断の効用についてアピールを行ってまいりました。

したがいまして、今こそ、このタイミングを利用して、事業体ごとの特徴ある長寿命化計画の中に、我々の提唱する管路品質評価システムを導入することができれば、長寿命化支援制度が目指す、予防保全での維持管理を前提としたアセットマネジメントが可能となり、長期的な観点でのコスト削減につながるものと考えます。

また、もうひとつの流れとしまして、管路更生工法品質確保協会（品確協）が今年度から一般社団法人として、より一層に本格的な活動を始めておられます。これをきっかけとして、管路更生の信頼性がさらに向上し、種々の管路更生工法が長寿命化の実現のために積極的に用いられる方向が期待されます。この観点からも、品確協の特別会員でもあるピケスト協会にとりまして、老朽管における更生の要否を判定するための品質評価や、あるいは更生管の品質を評価するための方法として、我々の掲げる品質評価システムが適用される可能性を広げるものであり、今後が大いに期待されるところであります。

このように、社会情勢の厳しい現状におきまして、ピケスト協会にとりましては、目指す方向に明かりが見えていないわけではありません。今こそ、会員の皆様方と知恵を出し合って、現状を打開する努力を続けていきたいと存じます。

昨年度のピケストの活動としましては、本日までご紹介があるかと存じますが、劣化診断技術につきましては、検査ロボットがさらに進化しておりますし、出来形診断に関しましては、内径変形検査ロボットを農水の管路施設に適用する事例も増えております。また、機能診断に関しましては、雨天時浸入水対策のマニュアル化も進んでおり、一方で、ピケストのワーキンググループの活動が品確協の取り組みの中で非常に貴重な役割も果たしています。このようにピケストは継続的な活動を続けて参っておりまして、引き続き会員の皆様方と力を合わせて新しい内容にもチャレンジをしていきたいと存じております。

特に、新年度につきましては、引き続き、技術面での充実を図る一方で、会員の全ての皆様方が本協会に所属されていることのメリットを実感していただけるような取り組みに力を入れてまいりたいと思います。

たとえば、営業展開の戦略に関して会員の方々相互での情報交換、あるいは連携体制について議論の場を設けることもひとつかと思えます。また、総合管路診断のため複数の要素技術を組み合わせたメニューの提示、アセットマネジメントを実現化するためのツールとして利用する方向を明示するなど、ソフト

面からのアプローチについても具体的なアクションを起こしていきたいと考えています。

いずれにしましても、会員皆様相互で意識の共有化と、強力な連携をはかることによりまして、本会が活性化しますますの発展するよう、会員の皆様方からのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

至って簡単ではございますが、会長挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。